

## 【ワークショップ (W5~W8)】

W5 14:00~16:30 心理テストやアンケートを用いた量的研究方法入門—データ収集・統計解析から論文作成—

寺嶋 繁典 (関西大学)

描画テストなどの心理テストやアンケートなどを用いて研究に携わりたいと思いつつも、どのような方法でデータを収集したらよいかかわからない、集めたデータに用いる統計の方法がわからない、研究の成果を学会で発表したり学術論文にまとめたいが、手順がわからないなどの理由で、研究を躊躇してきた方も少なくないかもしれません。本研修では、これから研究を始めたい方や、研究の初心者を対象に、心理テストやアンケートなどを用いた調査研究の方法から学会発表・学術論文の作成までを、参加者と討議をしながら、できるだけわかりやすく解説したいと思います。Evidence-based の臨床実践が求められる昨今、研究に携わる機会は今後、ますます増えてくるように思われます。

W6 14:00~16:30 神経発達障害児者への臨床描画の活用—「からだ」、「こころ」、そして「関係性」への視点—

木谷 秀勝 (山口大学)

今回のワークショップでは、DSM-5の「神経発達症/神経発達障害」の考え方を理解しながら、「学校・職場以上に日常生活で苦悩している」当事者の理解と、「からだ」・「こころ」・「関係性」の3つの視点からの支援の進め方について、臨床描画(人物画、バウムテスト等)を活用した事例を通して理解を深めたい。同時に、ウェクスラー式知能検査等との検査バッテリーについても言及する。

W7 14:00~16:30 絵画の歴史とパトグラフィー—天才たちの肖像—

内海 健 (東京藝術大学)

精神の病は、時代とともに変遷している。ごく短いスパンで振り返ってみても、百年前に初めて概念化された統合失調症は、またたくまに世紀を代表する狂気となり、そして前世紀の後半には著しく軽症化している。他方で、絵画はその時代の人間の空間構成や時代精神を色濃く反映している。両者の間にはある種の関連があると考えられるが、それが最も鋭敏に反映されるのは、天才たちの制作過程の中に他ならない。

本ワークショップでは、パトグラフィー的視点から、描画と病の関連について、講義と質疑応答を通して考察を加える。

W8 14:00~16:30 関係性のアセスメント—母子画を中心に—

馬場 史津 (中京大学)

描き手の「関係性」を理解するための描画法として、家族画と母子画を取り上げます。「関係性」はさまざまな支援の基礎となるものです。描き手には両親やきょうだいの関係がどのように見えているのか、他者は信頼できる存在として感じられているのか、そういった心の様相が家族画や母子画に表現されます。家族画と母子画は似ているようで、異なる描画法です。当日は両者を比較しながらそれぞれの特徴を解説し、特に母子画は実施、解釈、所見の作成までのプロセスについて紹介する予定です。